



「過疎集落」の現状と
今後の見通しは

橋本 洋一 (輝)



問／上越市における「過疎集落」の現状と集落の維持、活性化に向けた対策と今後の見通しはどうか。

答／「過疎集落」については、過疎地域や特別豪雪地帯等に指定された地域の集落と捉えており、上越市では大潟区と頸城区を除く地域で、726集落が該当となっている。このうち、65歳以上の高齢者が人口の50%以上を占める高齢化の進行が顕著な集落は160あり、全体の約2割となっている。市では集落の状況に応じた支援を行うことが重要と考え、集落づくり推進員が日常的に巡回しながら実情把握に努めているところである。集落が直面している人口減少や高齢化に起因する様々な課題は、一朝一夕に解決するものではないが、集落づくり推進員の増員や地域おこし協力隊を導入する地域も計画しているところであり、今後も地域の声をしっかりと聴いて、それぞれが思いを寄せる地域で暮らし続けたいと願う気持ちをくみ取りながら、地域に寄り添った支援を進めていく。



ドイツ・ホストタウン
活動を次世代へ



問／東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン活動について、ドイツのホストタウンとして合宿受入時の新型コロナウイルス感染症対策の準備状況はどうか。

答／選手団の移動は専用車両を準備し、宿泊施設では選手団以外の接触を避ける対策を講じるよう、ドイツ体操連盟と連絡調整に努めている。選手団と市民が直接触れ合う行事は難しいが、感染症対策を踏まえた交流の実施を検討している。今後、国などが決定する事項に基づき順次詳細を話していく。



上越市合宿受入
ドイツ・体操チームとドイツ・パラ柔道チーム

問／ドイツのホストタウン活動に取り組む自治体と連携し、上越市内の子どもたちとのスポーツ・文化交流を積極的に進める考えはないか。

答／これまでもドイツをホストタウンとする自治体と連携協議を立ち上げ取り組んできた。市で取り組んできた子どもたちによる交流体験や活動の一環として、今後も連携協議で築いた関係性をいかしていく。



市内郵便局も全国24自治体の
ドイツ・ホストタウンを紹介



安心して妊娠・出産・
子育てができる施策は



問／妊娠・出産・子育てに関する悩みを気軽に相談できる体制の充実を図ってはどうか。

答／多くの方々から気軽に相談いただけるよう、上越助産師会やNPO法人等も含め、各種相談窓口の周知を行い、不安や悩みを丁寧に聞き取り、寄り添った支援を行っていく。

問／宿泊型やデイサービス型の産後ケア事業は、答／産後ケア事業に関するアンケート調査や、医療機関等の意見を聞き、現状の取組について検証し、改善を図っていきたい。

大雪に関する対応状況と今後の対策は

問／市民からの多くの苦情や問合せを町内会とともに検証すべきと考えるがどうか。

答／毎年4月に行っている町内会へのアンケートで、意見・要望の集約をする。町内の現状や問題点を把握・共有し、町内会長・除雪事業者・市の3者による意見交換会を実施する。

インクルーシブ遊具の設置は

問／現存公園へのインクルーシブ遊具の設置は。

答／「みんなで育む子どもの笑顔・輝く未来」の実現に向けて、先進地の取組を把握し、障害者支援、子育て支援に携わる関係者の声を聞き、ニーズの有無や遊具の利用における課題を確認し、取り入れることができるか研究していく。